

## 1994年度 言語文化研究所事業一覧

### ① 実用語学講座

|      |        |       |      |
|------|--------|-------|------|
| 1994 | 5月10日～ | 7月15日 | 春期講座 |
|      | 9月30日～ | 12月9日 | 秋期講座 |
|      | 1月10日～ | 3月17日 | 冬期講座 |

### ② 夏期公開講座

|      |           |             |
|------|-----------|-------------|
| 1994 | 7月25日・26日 | 漢文講座        |
|      | 7月25日・26日 | 日本語・日本語教育講座 |
|      | 7月25日・26日 | 英語講座        |

### ③ 異文化体験講演会

|      |        |              |         |
|------|--------|--------------|---------|
| 1994 | 11月17日 | 「オランダ社会と安楽死」 | 太田和敬助教授 |
|      | 12月1日  | 「イギリスの世相」    | 土屋澄男 教授 |
|      | 12月8日  | 「日本での体験」     | 本学留学生他  |

### ④ 紀要発行

|      |      |            |
|------|------|------------|
| 1995 | 3月3日 | 「言語と文化」第7号 |
|------|------|------------|

## ① 実用語学講座

本研究所で本学内における言語教育の振興と普及に関する各種会合の開催の趣旨に基づいて、また本学が地域に開く生涯教育・社会教育として下記のとおり語学講座を開設致しました。

| 講 座              | 春期講座受講者                           | 秋期講座受講者                          | 冬期講座受講者                         |
|------------------|-----------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|
| 英 語 講 座          | 67 名<br>(内 初級24名、中級31名、<br>特別12名) | 47 名<br>(内 初級15名、中級23名、<br>特別9名) | 24 名<br>(内 初級6名、中級14名、<br>特別4名) |
| 中国語講座            | 17 名<br>(内 初級8名、中級9名)             | 22 名<br>(内 初級13名、中級9名)           | 10 名<br>(内 初級4名、中級6名)           |
| 仏 語 講 座          | 14 名<br>(内 初級9名、中級5名)             | 18 名<br>(内 初級13名、中級5名)           | 12 名<br>(内 初級8名、中級4名)           |
| 外国人のため<br>の日本語講座 | 40 名<br>(内 実習生19名)                | 45 名<br>(内 実習生9名)                | 37 名<br>(内 実習生9名)               |

## ② 夏期公開講座 (英語講座)

対 象 : 中学校／高等学校英語科教員及び教員志望者

目 的 : 英語教育、英語学、並びに英米文学についての理解を深める。

参加者数 : 42名

| 月・日              | 時 限 | テ ー マ                          | 講 師 名        | 会 場 |
|------------------|-----|--------------------------------|--------------|-----|
| 7月<br>25日<br>(月) | 1   | 英語教育の理論はどこまで実践に役立つか            | 伊藤 健三        | 7号館 |
|                  | 2   | シンポジウム<br>「中学・高校における英語実践上の諸問題」 | 司 会<br>土屋 澄男 | 7号館 |
| 7月<br>26日<br>(火) | 1   | 「教科書と指導要領」                     | 小泉 仁         | 7号館 |
|                  | 2   | シンポジウム<br>「ALTとのチーム・ティーチング」    | 司 会<br>広野 威志 | 7号館 |

(漢文講座)

対 象 : 中学校／高等学校国語科教員及び教員志望者

目 的 : 国語と国語文化及び、漢文教育についての理解を深める。

参加者数 38名

| 月・日      | 時限 | テ ー マ                                     | 講 師 名                   | 会 場 |
|----------|----|---|-------------------------|-----|
| 7月25日(月) | 1  | 「漢文教育論」                                   | 志村 和久                   | 7号館 |
|          | 2  | 「唐詩の世界」                                   | 加藤 敏                    | 7号館 |
|          | 3  | 「中国人の思考方法」                                | 謡口 明                    | 7号館 |
| 7月26日(火) | 1  | 「今、中国は」                                   | 志村規矩夫                   | 7号館 |
|          | 2  | 「史記へのこだわり」<br>「漢字文化圏の中の日本」<br>「漢文教育のあれこれ」 | 渡辺 雅之<br>下田 尚子<br>根本 正紀 | 7号館 |

(日本語・日本語教育講座)

対 象 : 中学校／高等学校国語科教員、日本語教員又は教員志望者

目 的 : 日本語及び日本語教育についての理解を深める。

参加者数 45名

| 月・日      | 時限 | テ ー マ                    | 講 師 名    | 会 場 |
|----------|----|--------------------------|----------|-----|
| 7月25日(月) | 1  | 「辞書の選び方、使い方」             | 遠藤 織枝    | 7号館 |
|          | 2  | 「ハンガリーにおける日本語教育」         | ヒダシユディット | 7号館 |
|          | 3  | 「名詞の主要部とする単位の意味の構造」      | 鬼山 信行    | 7号館 |
| 7月26日(火) | 1  | 「東京アクセントの変化の動向」          | 松永 一枝    | 7号館 |
|          | 2  | 「接触場面におけるコミュニケーション成立の要素」 | 藤井美智子    | 7号館 |
|          | 3  | 「ニュージーランドと北京における日本語教育実習」 | 加納 陸人    | 7号館 |

### ③異文化体験講演会

第1回・・・・・・11月17日（木）

「オランダ社会と安楽死」

安楽死に見るオランダの親子関係

太田 和敬（人間科学部助教授）

第2回・・・・・・12月1日（木）

「新聞に見るイギリスの世相」

紳士の国と思われているイギリスの最近の世相

土屋 澄男（文学部教授）

第3回・・・・・・12月8日（木）

「日本での体験」・・・・留学生等から見た日本の姿

モハマド・ハッサン（マレーシア・日文4年）

方 川利（中国 ・日文3年）

ペイマン・ハフェズイ（イラン ・社会人 ）

#### 研修部より

野原章雄

1993年度は夏期講座と実用語学講座を開催した他に①中華語文研習所との交流（6月2日～6日）を実施する。何景賢所長来校。②中華語文研習所より日本語研修生として張麗貞、劉玉鈴の2氏を12月1日～25日まで受入れる。以上のことが主なる活動であった。

1994年度は前年度と同じ2つの講座を開講した他に『異文化体験講演会』を実施する。①「オランダにおける安楽死」太田和敬（人間科学部），11月17日（木）②「新聞に見るイギリスの世相」土屋澄男（文学部），12月1日（木）③「日本での体験」モハマド・ハッサン（マレーシア・日文4年），方川利（中国・日文3年），ペイマン・ハフェズイ（イラン・社会人）の以上5氏による。太田，土屋の両先生はそれぞれの当該の国での在外研究の成果を語ってくれました。講座および講演会の参加者が本学の学生、教職員だけでなく地域の人達の多数の参加を見たことはこれからの当研究所の指針となるものであろう。